

## 都市と交通の最終レポート

チーム名 松屋ヘビーユーザー

C1252532 丸岡 悠人

### A) 他チームの発表を聞いて

私が他のチームの発表を聞いて参考になったのは、「37 班チーム頭文字（イニシャル）IKT」の交通安全教室で VR を使用するという意見です。これまで交通安全教室は、小学校、中学校、高校とたくさん受けてきました。ですが、これまでの交通安全教室で VR を使用しているところは見ることがなく、新鮮だなと感じたので、参考になりました。

### B) 地方都市における交通の問題を総合的に解決するための自分の意見

交通事故の現状として、2024 年の交通事故による死亡者 2,663 人のうち、65 歳以上が約 56.8%（約 1,513 人）と半数を超えて高い割合になっています。また、高齢者は死者全体の半数以上を占めている状態が続いています。

そこで私たちのチームでは、全国の交通事故件数・負傷者数・死者数が長期的には減少傾向ではあるが、高齢者関係事故の割合が相対的に高い点を課題として設定しました。この課題に対して、次の二つの解決策を提案しました。一つ目は、高齢ドライバー向けの制度を作ることです。日本では 75 歳以上の高齢ドライバーに対して、免許更新時の認知機能検査や運転技能検査が義務付けられるなどの対策が進んでいます。二つ目は、安全支援技術の普及です。自動ブレーキや高齢者向けの安全支援装置の搭載促進、道路側の安全対策（歩行者保護の信号改良やスピード制限の見直しなど）が進められています。

これら二つの解決策の提案によって期待される効果は次の四つがあります。一つ目は、交通事故死者・重傷者の減少です。認知機能検査や運転技能検査、安全運転サポート車の普及により、踏み間違い事故や判断ミスによる重大事故が減少すると期待されます。特に 75 歳以上の死亡事故率の低下が見込まれます。二つ目は、高齢者自身の安全確保です。歩行者向けの信号改良、横断歩道の整備、夜間の視認性向上などにより、道路横断中の事故リスクが低下し、高齢者が安心して外出できる環境が整います。三つ目は、家族・社会の不安軽減です。高齢ドライバーの事故が減ることで、「運転を続けて大丈夫か」という家族の不安や、高齢者事故に対する社会的な不信感の緩和につながります。四つ目は、医療・社会的コストの削減です。交通事故による医療費・介護費・損害賠償の負担が減り、社会全体のコスト削減にも貢献します。

私たちのチームでは、以上のような二つの解決策と四つの期待される効果を示しました。ですが、「37 班チーム頭文字（イニシャル）IKT」の交通安全教室で VR を使用する

るという意見を私たちのチームの解決策に加えたいと思います。「37 班チーム頭文字（イニシャル）IKT」の発表では、若年層の自転車問題を取り上げていました。その中での交通安全教室で VR を使用するという意見でしたが、今回、私たちが示したような高齢者の交通事故に対しても VR は使えるのではないかと思い、「37 班チーム頭文字（イニシャル）IKT」の意見を取り入れました。「37 班チーム頭文字（イニシャル）IKT」の発表にもあった若年層の自転車事故も私たちのチームで示した高齢者の交通事故もそれぞれ本人たちが実際に事故に遭ってからでないと、事故の恐ろしさを知ることではないと思いました。ですが、実際に事故に遭ってしまっただと遅いと思います。もし、実際に事故に遭ってしまい、死亡してしまったり、重傷を負ってしまったりしてしまったら、事故にあった本人たちの人生が台無しになってしまいます。そのため、事前に事故に遭ってしまうことを防ぐためにも、VR を使用して実際の事故を体験してもらうことが大切だと思います。ただ事故の模擬体験をしてもらうだけでなく、事故に遭ってしまった後についても VR で体験してもらうことも必要です。私は事故にあったことがないのですが、中学校の頃、友達が事故に遭ってしまったことがありました。その子の話では、事故にあったその時のことについては正直覚えていないと言っていました。ですが、事故にあったことにより重傷を負ってしまいました。その重傷したことについて、今後の生活で不便な点が出てくるのがとても嫌だと言っていました。それを聞いて私は、事故にあったその一瞬のことよりも事故に遭ってしまったことによる弊害について考えるべきだと思いました。

まとめると、私たちのチームが示した高齢者の事故も「37 班チーム頭文字（イニシャル）IKT」が示した若年層の自転車事故も事前に対策することが必要だと思います。そのためには、交通安全教室で VR を使用した交通事故の模擬体験を受けてもらうことが必要だと考えます。その模擬体験を通して、受けた人たちがこれからの過ごし方について考え直すきっかけになってくれれば、さらに効果的なのではないのかなと思います。